

学 校 教 育 目 標	心豊かでたくましく 共に生きる児童の育成
目 指 す 学 校 像	知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた児童を育成する学校
重 点 目 標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「多様な学び」の実現 2 予測困難な時代を生き抜くためのエージェンシーの育成 3 子ども・家庭・地域とともに歩む学校づくりの推進 4 安全安心で潤いのある教育環境の整備 5 「教え方改革」「働き方改革」による教職員の授業力・指導力向上

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	・1人1台端末を活用した授業づくりを各教科へと更に広げて、指導を充実させていきたい。 ・学習習慣の定着に向けて、懇談会等の場も活用し、家庭と学校の連携・協力を図っていく。 ・ICTスキルの向上や個人差に応じた指導にも取り組んでいく。 ・「Sola る一む」の活用をはじめ、多様な学びができる学習環境を整備していく。	・学びの質の向上と学習習慣の定着	・タブレットなどのICTを効果的に活用した授業を展開し、児童一人ひとりが充実感、達成感を味わうことができる学習指導の実施。 ・自立を促すコーチングの連携・共有。 ・ICT活用能力を向上させるICTタイムの導入。	・学校評価アンケート「タブレットを進んで使うことができる（児童）」の評価向上（R6:92%→R7:95%）。 ・「友だちの考えを知り、自分の考えが広がったり、深まったりすることがたくさんあった（児童）」の評価向上（R6:88%→R7:92%）。					
		・個に応じた指導の充実	・「Sola る一む」の活用をはじめ、多様な学びができる学習環境の整備。 ・不登校等児童へのアウトリーチやオンラインで全ての児童とつながる。	・多様な学びの場を工夫し、誰一人取り残さない教育活動を実現できているか。					
2	・毎朝、全校児童一人ひとりの表情を見取り、おはようメーターの入力状況等も確認して児童の様子を把握し、心配な子への見守りや声掛けにつないでいく。 ・「心を潤す4つの言葉」や「あいさつ」については家庭でも話題にしてみよう。 ・児童主体のルールメイキング等の取組も推進していきたい。 ・暑さ指数や雨風等に留意しながら、安全に外遊びが行えるように、安全教育を進めていく。 ・縄跳びチャレンジなどの取組とも関連付けながら体力向上を図りたい。	・社会性やコミュニケーション能力の育成	・特別支援教育や教育相談の視点による指導・支援の方法について全教職員で共有し、学校全体で支援を行う。 ・保護者と連携した基本的な生活習慣の定着と「あいさつ運動・あいさつ通り」の取組の実施。 ・外遊び等での交流タイムや異学年交流行事、児童主体の取組の実施。	・学校評価アンケート「学校生活を楽しむ過ごせている（児童）」の評価向上（R6:90%→R7:93%）。					
		・健やかな身体の育成	・安全な生活と健やかな身体づくりの理解に向けた組織的、積極的な安全教育・保健指導・食育の実施。 ・体育における慣れの運動等の導入、運動時間の確保、外遊びの推進。	・学校評価アンケート「進んで、外で遊んだり、運動したりしている（児童）」の評価向上（R6:77%→R7:80%）。					
3	・中島小学校の児童を中心に、「あいさつ運動・あいさつ通り」を発展させて、中島地区、中島小学校に関わる人がお互いにあいさつを交わす取組を広げていきたい。 ・教職員や保護者が地域の歩みや文化等を知る機会、研修の場を作っていく。 ・地域のお祭り等に金管バンドをはじめ、多くの児童の参加を図る。 ・PTAや地域の行事に参加した児童の感想等を校内に広げていく。	・コミュニティ・スクールの実施	・「あいさつ通り」の横断幕を作成、表示し、「コミュニティ・スクール」の推進と協働活動の活発化に結び付ける。 ・地域の人材等を活用した児童の学習活動や教職員等研修会を実施する。	・「あいさつ通り」の横断幕作成。 ・学校運営協議会を中心に、児童の声も聞きながら、学校・家庭・地域が連携・協力して、協働活動に取り組んでいるか。					
		・PTAや育成会等の地域との連携	・交流給食や行事等を生かし、地域の方と交流する場を積極的に創出する。 ・PTAや育成会の行事等について、学校だより等で積極的に情報発信する。	・学校評価アンケート「地域の人といっしょに活動するのは楽しい（児童）」の評価向上（R6:72%→R7:75%）。					
4	・校内のトラブルや事故等に対しては、初期対応を丁寧に行うとともに、ヒヤリハット事例を共有して事故の未然防止に努めていく。 ・危険箇所については迅速に対応していく。 ・持続可能な緑化管理や飼育栽培活動を進める。 ・プール老朽化への対応を始め、大規模な修繕を要する箇所については、計画的に市教委とも連携していく。	・教育活動充実のための環境整備	・学校予算について、衛生・安全管理と教育活動の円滑な実施の視点で支出の見直しをもち、効率的に執行する。 ・傷病者発生時、不審者侵入時、災害発生時等の対応訓練を全教職員で実施する。	・危険箇所・要修繕箇所等を一覧にし、優先順位を決めて着実に対応できているか。					
		・学校施設の安全管理	・校地内巡回により施設・設備の安全点検を定期的に行う。 ・けがの防止や食物アレルギーに係る対応等は複数のチェック体制で確実に実施する。	・学校事故や医療等を要した怪ものの発生件数の削減（R6:39件→R7:35件、2学期末比較）。					
5	・伝統を踏まえながらも、前例にとらわれない活気ある職場環境を目指して、年次や職種を越えて職員間で柔軟に学び合う風土を醸成していく。 ・学級担任のうち20代が半数以上、子育て世代も多い職員構成の中、情報伝達を徹底するとともに、同僚や上司の支援が大きい組織としてサポートし合っていく。	・教職員研修の充実	・校長・教頭による全教員の授業参観・指導、校内研修や年次研修等の機会をとらえた教員相互の授業参観、研究協議の実施（随時） ・教員自らの資質向上に向けて、1人1つ以上の研修を主体的に受講する。	・全教員が学びの自律化や情報端末の活用をテーマに公開授業を行うとともに、相互に実践事例を共有する研修を実施しているか。					
		・働き方改革や業務の効率化	・ノー会議デーの設定。 ・繁忙期を除き勤務時間インターバル 11～12hの推進。 ・余剰授業時数の削減、行事等の見直し。	・教職員ストレスチェック集団分析結果の標準集団（全国平均）と比較した健康リスク減少。					